

第2章 町田市の現状と課題

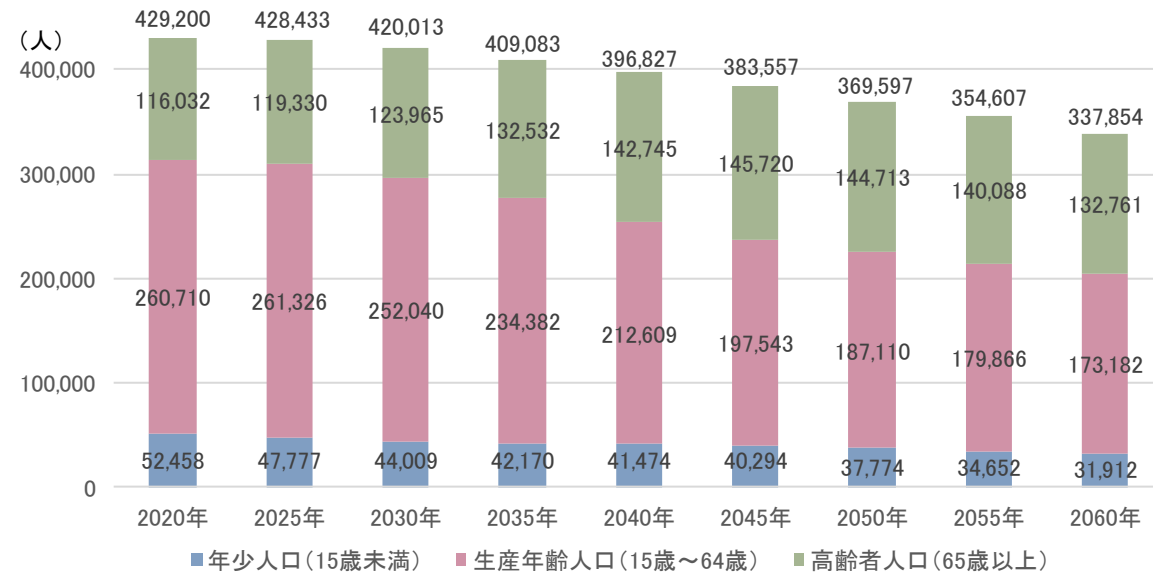
- 1 町田市の現状
- 2 町田市の課題

1 町田市の現状

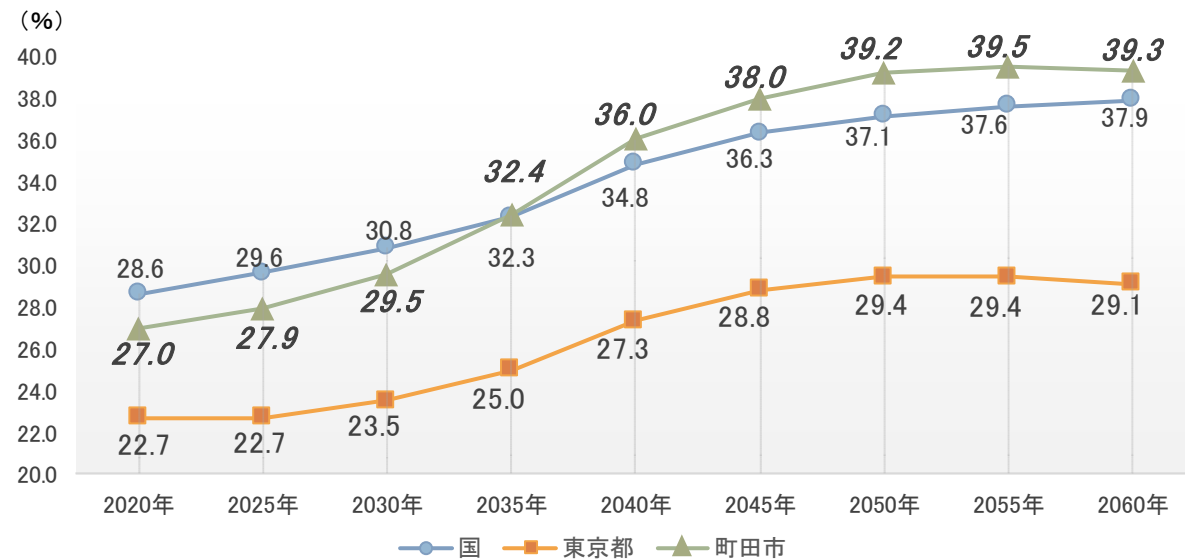
(1) 統計データから見える現状と将来推計

町田市の現状や将来の姿を把握するために、統計データの分析や将来推計を行いました。

【図 2-1】町田市の総人口の推移

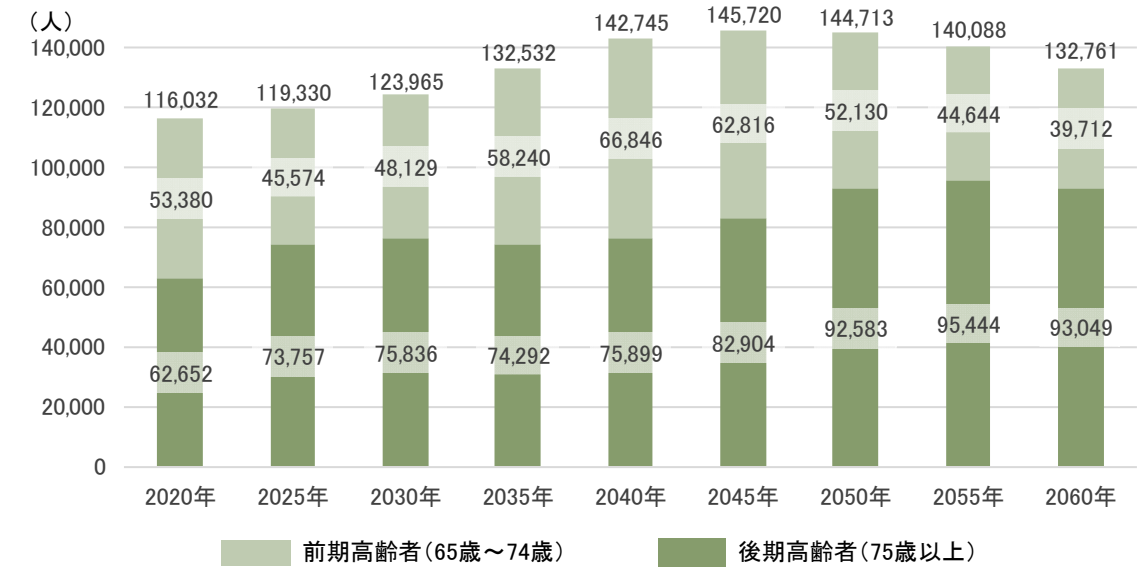


【図 2-2】高齢化率の将来推計(国・東京都・町田市)



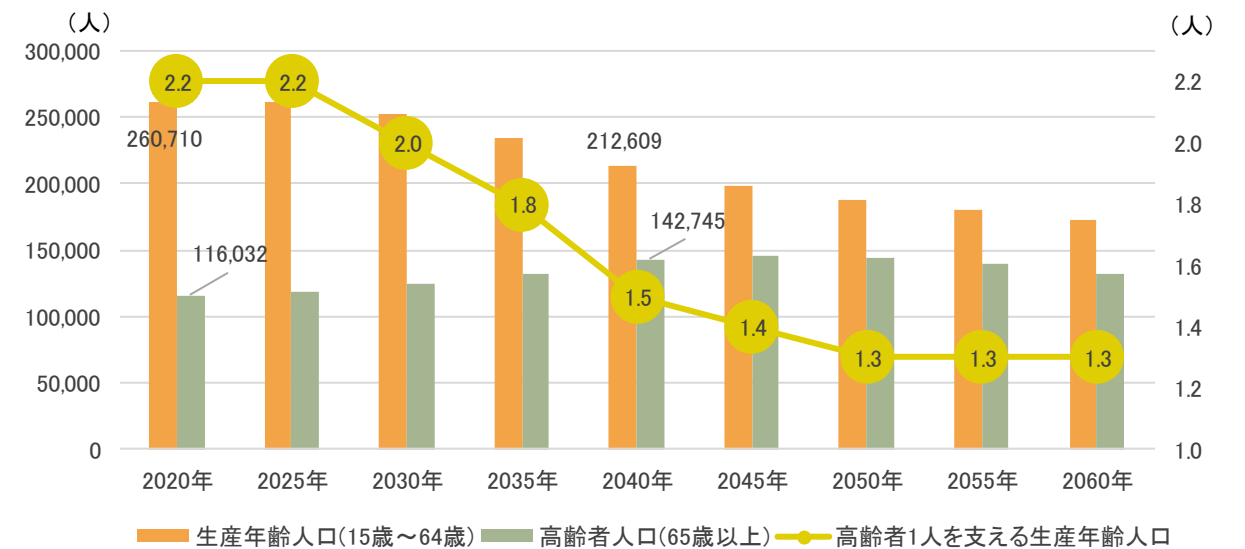
- 町田市の総人口は 2020 年時点で約 429,000 人です。国の総人口は 2008 年にピークを迎えましたが、町田市は 2025 年頃まで横ばいで推移し、その後減少に転ずる見込みです。【図 2-1】
- 町田市の高齢者人口は 2020 年時点で約 116,000 人であり、高齢化率は約 27%です。2035 年には、高齢者人口は約 133,000 人まで増加し、高齢化率は国に並ぶ約 32%に達します。その後、高齢化率は国を上回り推移する見込みです。【図 2-1・図 2-2】

【図 2-3】町田市の高齢者人口の推移



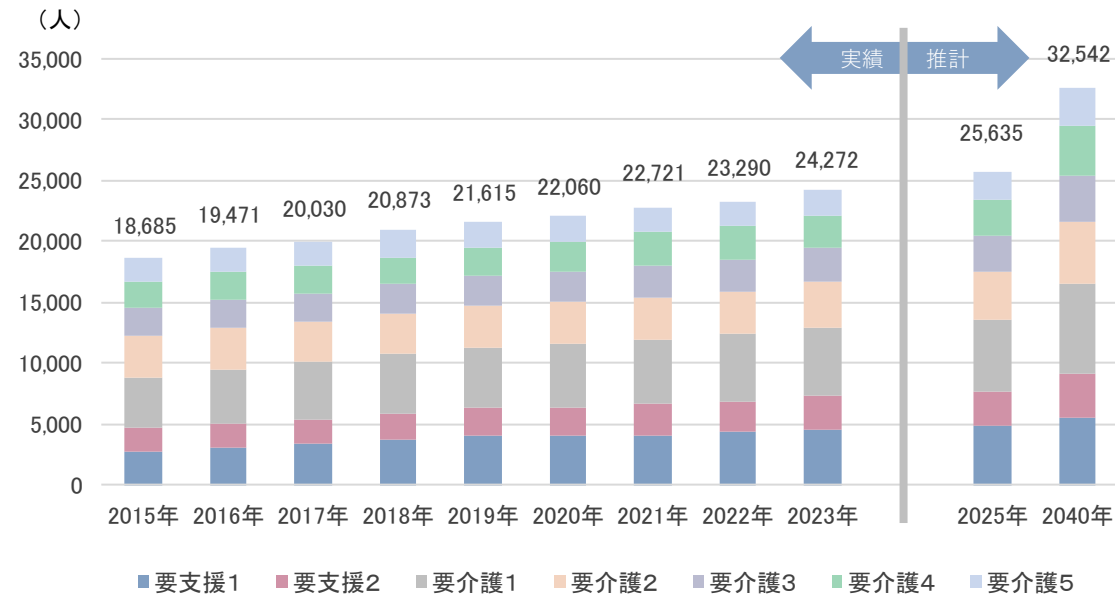
- 高齢者人口は 2045 年頃にピークを迎え、その後は減少に転じる見込みです。
 - 前期高齢者人口のピークは団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年頃です。後期高齢者は、高齢者人口の減少が始まった後も増加し続け、2055 年頃にピークを迎えます。
- 【図 2-3】

【図 2-4】町田市の年齢区分別人口と高齢者1人を支える生産年齢人口の推移



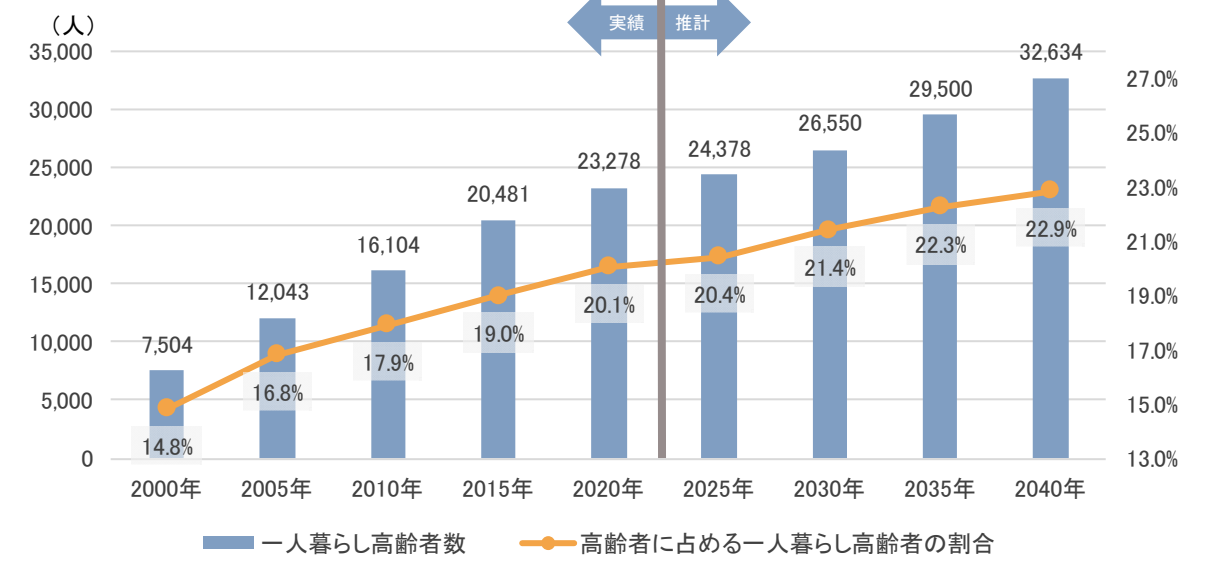
- 生産年齢人口の減少に伴い、介護保険制度における財源・サービスの支え手不足が深刻化する見込みです。2020 年には生産年齢人口 2.2 人で高齢者 1 人を支えていましたが、2040 年には生産年齢人口 1.5 人で高齢者 1 人を支える計算になります。いわゆる「肩車型社会」が目前に迫っています。【図 2-4】

【図 2-5】町田市の要介護・要支援認定者数の推移



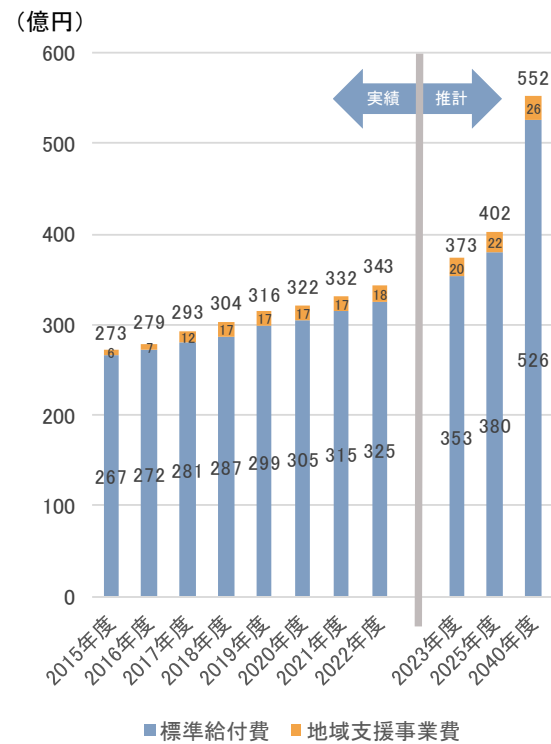
● 高齢者人口の増加に伴い、町田市の要介護・要支援認定者*数も増加しています。2020年時点で約 22,000 人である要介護・要支援認定者は、2040 年には約 1.5 倍の約 33,000 人まで増加する見込みです。【図 2-5】

【図 2-8】町田市の一人暮らし高齢者数と高齢者に占める割合の推移

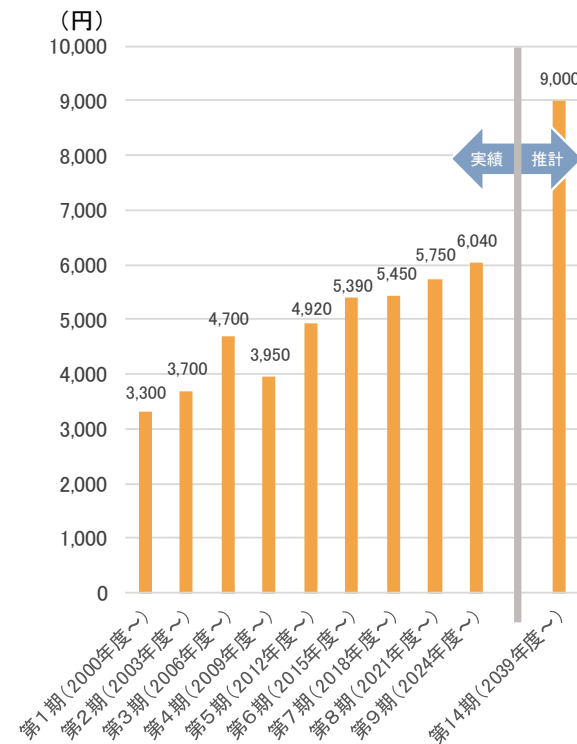


● 2020 年時点で約 116,000 人である町田市の高齢者人口の内、約 20%にあたる約 23,000 人が一人暮らし高齢者です。この割合は団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年には約 23%まで増加するため、高齢者のほぼ 4 人に 1 人が一人暮らし高齢者となる見込みです。【図 2-8】

【図 2-6】町田市の介護サービスに関する給付費等の推移

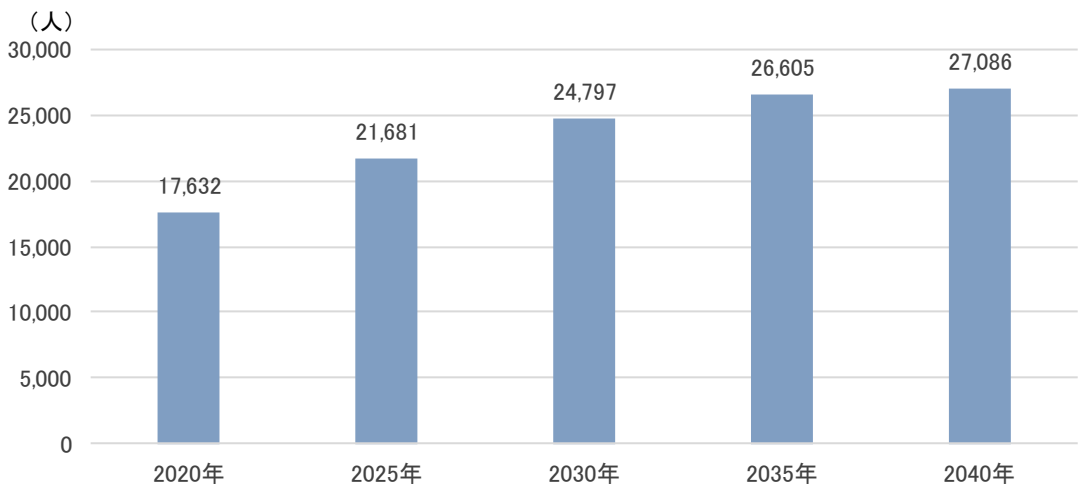


【図 2-7】町田市の介護保険料月額基準額*の推移



● 高齢者人口の増加に伴い、介護サービスに関する給付費等も増加しています。これにより、公費等の制度維持のための費用や介護保険料が増加しています。【図 2-6・図 2-7】

【図 2-9】町田市の認知症の高齢者数の推計



● 町田市の認知症の高齢者数は 2020 年時点で約 18,000 人と推定されます。2040 年には約 1.5 倍の約 27,000 人まで増加し、高齢者のほぼ 5 人に 1 人が認知症となる見込みです。【図 2-9】

(2)前プランの進捗状況

計画審議会では、プランの進捗評価を毎年度行っています。前プランの進捗状況評価結果は以下のとおりです。

基本目標／基本施策	取組数	進捗評価の構成割合		
		◎	○	△
1 地域とつながり、いきいきと暮らしている	14	5	7	2
1 地域活躍と生きがい・健康づくりの推進	8	1	5	2
2 地域ネットワークの充実	6	4	2	0
2 支援が必要になっても、支え合いにより住みなれた地域で生活できている	19	7	9	3
3 日常生活支援の推進	8	2	4	2
4 認知症とともに生きるまちづくりの推進	5	2	2	1
5 在宅医療を支える医療・介護の連携の推進	2	1	1	0
6 家族介護者の支援と高齢者の権利擁護	4	2	2	0
3 よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができる	17	3	10	4
7 住まいの選択肢の充実とサービス基盤・人的基盤の整備	6	1	4	1
8 介護保険サービスの効率的な提供と品質向上	11	2	6	3
取組数の合計	50	15	26	9
割合	100.0%	30.0%	52.0%	18.0%

<凡例>◎:計画以上に進んだ、○:おおむね計画どおりに進んだ、△:計画どおりに進まなかった

前プランの進捗評価から見える現状

- 前プランの進捗状況は、82%の取組みが計画以上、またはおおむね計画どおりに進捗していると評価されています。
- 地域ネットワークの充実、在宅療養*を支える医療・介護の連携の推進にかかる各取組みは計画どおり進捗しています。
- 「町トレ*」を始めとする介護予防のための通いの場*の拡充や、「Dカフェ*」など認知症の人やその家族の支援は順調に進んでいます。これらは、全国的にも注目されている取組みです。
- 家族介護者支援の取組みは計画通り進捗しています。しかし、高齢者やその家族からは依然として高いニーズがあります。
- 介護人材の確保・育成・定着については重点的に取組みを進めました。人材不足の解消は引き続きの課題となりますが、離職率は改善傾向にあります。
- 介護サービスの基盤整備については新規整備に向けて公募期間を限定しないなど、引き続き柔軟な対応が求められます。
- 介護サービスの効率的な提供・品質向上について、更なる推進が求められています。

(3)各種調査の分析

2022年7月～12月に市内の高齢者やその家族、介護保険事業所への調査を実施しました。1万件を超える調査結果について困りごとやニーズを数値化するとともに、その中から多くあった内容を「声」としてまとめました。

① 各種調査の概要

ア. 元気な高齢者及び要支援1・2の高齢者を対象とした調査

実施時期	調査対象の内訳	発送数	回収数	回収率
2022年12月	一般高齢者	5,716	4,031	70.5%
	事業対象者 要支援1・2	2,277	1,426	62.6%

※ 調査の正式名称は「健康とくらしの調査(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)」

イ. 要介護1～5の高齢者を対象とした調査

実施時期	調査対象の内訳	発送数	回収数	回収率
2022年11月	要介護1～5	8,708	4,649	53.4%
	特養待機者	400	193	48.3%

※ 調査の正式名称は「高齢者の福祉や介護に関する調査-市民ニーズ調査-」

ウ. 在宅療養中の高齢者と主な家族介護者を対象とした調査

実施時期	調査対象の内訳	発送数	回収数	回収率
2022年7月～12月	認定調査(更新)を受ける在宅生活者	623	623	100%

※ 調査の正式名称は「高齢者の福祉や介護に関する調査-在宅介護実態調査-」

エ. 介護保険事業所を対象とした調査

実施時期	調査対象の内訳	発送数	回収数	回収率
2022年11月	市内介護保険事業所	588	397	67.5%

※ 調査の正式名称は「高齢者の福祉や介護に関する調査-事業所調査-」

「ア. 元気な高齢者及び要支援1・2の高齢者を対象とした調査」から分かったこと



約 60%の方が地域等で行うグループ活動等への参加に前向きです

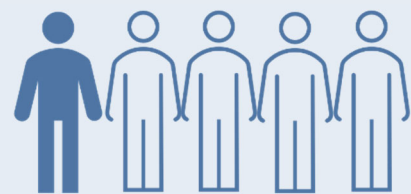
地域住民による健康づくり活動や趣味活動等のグループ活動への参加の意向を尋ねた設問では、5.4%が「すでに参加している」、4.3%が「是非参加したい」、50.4%が「参加してもよい」と回答しました。



約 42%の方が地域等で行うグループ活動等の企画や運営に前向きです

上記のグループ活動等で、企画や運営などの役割を持ったお世話役としての参加の意向を尋ねた設問では、4.8%が「すでに参加している」、2.6%が「是非参加したい」、34.4%が「参加してもよい」と回答しました。

グループ活動等へ参加していない理由



約 5 人に 1 人が「グループ活動等に関する情報が手に入らない」を理由としてあげています

グループ活動等に参加していない高齢者に対しその理由を尋ねた設問では、19.7%が「グループや活動の情報が手に入らない」と回答しました。

「イ. 要介護1～5の高齢者を対象とした調査」から分かったこと

約 50%の方が現在利用している介護サービスに満足しています



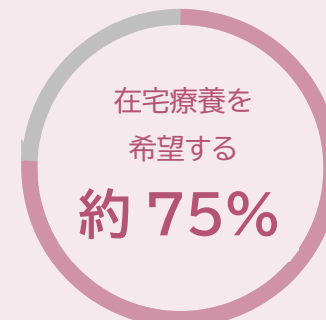
現在利用している介護サービスへの満足度を尋ねた設問では、50.7%が「満足」と回答しました。

認知症の人の約 70%は、周りの人に自分の考えを尊重してもらえていると思っています



周りの人が自身の考えを尊重してくれていると思うかを尋ねた設問で「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答した認知症の人の割合は、69.0%でした。

約 75%の方が在宅療養を希望しています



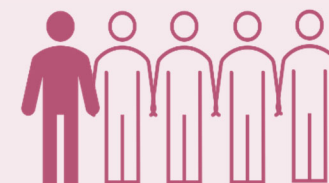
長期の治療、療養が必要になった場合の在宅療養の希望を尋ねた設問では、74.3%の方が「希望する」と回答しました。

約 60%の方が在宅療養での家族の肉体的・精神的負担を不安に感じています



在宅療養について不安に感じることを尋ねた設問では、62.3%が「家族の負担(肉体的・精神的)」と回答しました。

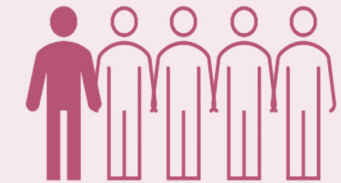
近所付き合いの有無



約 5 人に 1 人が全く近所付き合いをしていません

地域のご近所の方とどのような付き合いをしているかを尋ねた設問では、17.3%が「全く付き合いをしていない」と回答しました。

複数の困りごとを抱えている人



約 5 人に 1 人が障がいのある家族のケア、生活の困窮、引きこもり・孤立など、複数の困りごとを抱えています

世帯における困りごとの有無について尋ねた設問では、20.5%が「困りごとが2つ以上ある」と回答しました。

「ウ. 在宅療養中の高齢者と主な家族介護者を対象とした調査」から分かったこと



主な家族介護者の約 45%はフルタイム
又はパートタイムで働いています

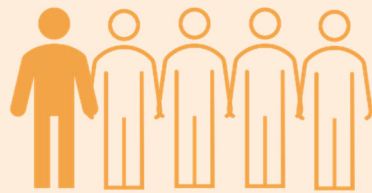
主な家族介護者の現在の就労形態について尋ねた設問では、24.8%が「フルタイムで働いている」、18.7%が「パートタイムで働いている」と回答しました。



主な家族介護者の約 4%が過去1年間に
介護を主な理由として仕事を辞めています

過去1年間の介護離職*の有無について尋ねた設問では、4.1%が介護を理由として「主な介護者が仕事を辞めた」と回答しました。

主な家族介護者が不安に思うこと



約5人に1人の主な家族介護者が
認知症状への対応に不安を抱えています

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じることを尋ねた設問では、21.2%が「認知症状への対応」と回答しました。

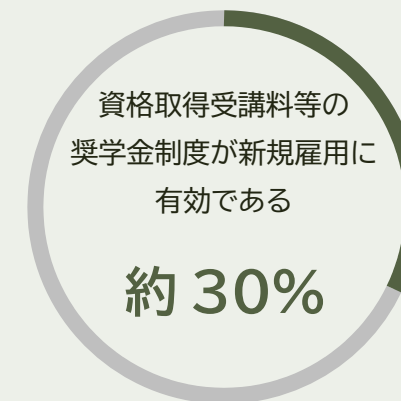
「エ. 介護保険事業所を対象とした調査」から分かったこと

約 50%の事業所が必要と考える職員数を
確保できない時があります



必要と考える職員数を常時確保できているかを尋ねた設問では、20.4%が「確保することが難しい」、30.0%が「確保できていない時がある」と回答しました。

約 30%の事業所が雇用拡大のため資格取得
受講料等の奨学金制度が有効と考えています



職員の新規雇用を拡大するために、検討している方策について尋ねた設問では、30.7%が「資格取得等に必要となる受講料等の奨学金制度を設ける」と回答しました。

急変時の入院を依頼できる病院がある
事業所は約 11%です



医療機関との連携について尋ねた設問では、「急変時の入院を依頼できる病院がある」と回答した事業所が 11.3%でした。

ケアプラン*作成を行う事業所の約 90%が
社会資源をケアプランに盛り込んでいます



ケアプラン作成において、介護サービス以外の各種ボランティアや見守り支援ネットワーク等の社会資源を盛り込み、活用したことがあるかを尋ねた設問では、ケアプラン作成を行う事業所の 90.5%が「ある」と回答しました。

② 各種調査の結果から読み取れる高齢者等の声

プランの策定において大切なことは、当事者などの声を聞き、そのニーズを把握することです。高齢者や介護保険事業所等への調査の結果からは、以下のような声を読み取ることができました。

【高齢者の声】

～高齢者を対象とした調査より～



- 生きがいをもって暮らしたい。
- 地域の活動についてもっと知りたい。
- 何かあった時に一人だと不安だ。
- 困りごとをまとめて相談したい。
- 自宅で暮らし続けたい。
- 介護をしてくれる家族に負担をかけたくない。
- よりよい介護サービスを受けたい。
- 認知症になってもこれまでと変わらずに暮らし続けたい。

【家族の声】

～在宅療養をする高齢者と主な家族介護者への調査より～



- 仕事と介護を両立したい。
- 家族が認知症になった時が不安だ。

【事業所の声】

～介護保険事業所を対象とした調査より～



- 十分なサービスを提供するために、必要な職員を確保したい。
- 資格取得を後押しするなど、職員を確保するための方策を実施したい。
- 利用者のために医療・介護連携をスムーズに行いたい。
- 社会資源を活用しながら、より良い介護サービスを提供したい。

(4) 地域ケア会議の意見

町田市では、医療・介護の専門職、福祉関係者、民生委員・児童委員、警察・消防関係者などの関係者が集まり、それぞれの知識や経験を活かすことで、高齢者が抱える個別の課題を解決するための話し合い(地域ケア会議)を行っています。この会議により、関係者の視点から見た地域ごとのニーズの傾向性や町田市全体でのニーズが見えてきます。

関係者から見たニーズ

【高齢者の社会参加に関すること】

- 通える範囲で体を動かしたり、趣味を楽しめる場が必要です。
- 高齢者が活躍できる場が必要です。
- 地域住民が多世代で交流できる場が必要です。



【生活支援に関すること】

- 支援が必要な時の相談先の周知が必要です。
- お店があっても坂が多くて、買い物に行けないという声があります。
- 体の機能が低下した高齢者の外出が難しいことがあります。

【高齢者の見守りに関すること】

- 介護予防や見守り、生活支援のボランティア育成が必要です。
- 地域貢献の場を求めている事業者や高齢者と、地域のニーズのマッチングが必要です。
- 地域で見守りや助け合いを行うためのネットワークづくりが必要です。

【認知症支援に関すること】

- 認知症は早期受診をして支援につなげることが必要です。
- 若年性認知症*の人には就労や就労継続等の支援が必要です。
- 判断能力が低下した場合等のために、あらかじめ成年後見制度等があることを周知しておく必要があります。

【在宅療養に関すること】

- 在宅療養を地域で支える体制づくりが必要です。
- 在宅療養に携わる医療職や介護職へのカスタマーハラスメントが問題になっています。

地域ケア会議の意見

- 高齢者が活躍できる場が必要。
- 生活上の支援を必要とした時の相談先の周知が必要。
- 地域で高齢者を見守るネットワークづくりが必要。
- 認知症の疑いがある人などを早期に支援につなげることが必要。
- 在宅療養を地域で支える体制づくりが必要。

2 町田市の課題

(1) 課題の抽出

第2章の1「町田市の現状」であげた、統計データや前プランの進捗状況などからは、それぞれ異なる課題が見えてきます。将来的な展望から求められる対応、これまでの取組み状況から改めて見えてくること、高齢者やその家族等が抱えるそれぞれの困りごとなどを踏まえ、地域や高齢者等の声にどのように応えていくかという視点から課題を抽出しました。

「(1) 統計データから見える現状と将来推計」から見える課題

統計データからは、高齢者の増加に加え、生産年齢人口の減少が急激に進むこと、介護サービスに関する給付費等や介護保険料の増加が見込まれること、一人暮らし高齢者や認知症の人の増加が見込まれることなどが明らかになりました。これらの現状から、以下の課題を抽出しました。

課題

- 持続可能な介護保険制度の運営に向けた給付適正化等の取組みの強化が求められています。
- 高齢者を孤立させないために更なるアプローチが求められています。
- 認知症の人やその家族が暮らしやすいまちづくりが求められています。

「(2) 前プランの進捗状況」から見える課題

前プランの取組みの進捗状況を確認し、十分な取組みが出来ていない項目については改めて課題として捉え直します。

前プランの進捗状況からは、「介護予防のための通いの場の充実などの取組みが順調に進んでいる」こと、「家族介護者支援について依然として高いニーズがある」こと、「離職率は改善傾向にあるものの、介護人材不足の解消は引き続きの課題となる」ことなどが明らかになりました。これらの現状から、以下の課題を抽出しました。

課題

- より多くの高齢者が参加しやすい通いの場の拡充が求められています。
- 在宅療養における家族介護者の負担の更なる軽減が求められています。
- 介護人材の確保・育成・定着に対し、引き続き重点的に取り組むことが求められています。

「(3) 各種調査の分析」から見える課題

各種調査の分析からは高齢者の地域での活動状況や困りごと、家族介護者の就労状況や抱えている不安、介護保険事業所の運営状況などが明らかになりました。これらの現状から、以下の課題を抽出しました。

課題

- 高齢者の社会参加と活躍の機会の拡充が求められています。
- 高齢者本人やその家族等の複雑化・複合化した課題の受け止め体制の充実が求められています。
- 認知症の人の家族に対する支援の拡充が求められています。
- 在宅療養における家族介護者の負担の更なる軽減が求められています。
- 医療・介護連携の更なる強化が求められています。
- 介護サービスの質の更なる向上が求められています。
- 社会資源の更なる発掘と調整が求められています。

「(4) 地域ケア会議の意見」から見える課題

専門職などによる地域の話し合いである地域ケア会議では、医療職や介護職などの専門職や、地域に精通した関係者の視点をとおして、地域のニーズの傾向性や町田市全体でのニーズが見えてきます。この話し合いの内容から、以下の課題を抽出しました。

課題

- 高齢者の社会参加と活躍の機会の拡充が求められています。
- 高齢者を孤立させないために更なるアプローチが求められています。
- 社会資源の更なる発掘と調整が求められています。
- 認知症の人やその家族が暮らしやすいまちづくりが求められています。
- 在宅療養を地域で支える体制づくりが求められています。

(2)課題の整理

これまでにあげてきた、高齢者等の声・町田市の現状・町田市の課題をプランの2つの目的に沿って整理しました。

